

だから、たからもの

日本再発見塾

問い合わせ・参加申込先
<http://www.e-janaka.com>

第十回 新潟県・十日町市二〇二五年八月二十二日[土]—二十三日[日]

主催〓「日本再発見塾 in 十日町」実行委員会 後援〓構想日本／十日町市
黛まどか「俳人」 野崎洋光「料理人」 吉岡幸雄「染色家」 ほか 参加

十日町の「だいじんがあ」は十日町にあるすべてのもの。冬の寒空も、雪も。なぜそれがたからものなのか。学び、再発見し、そして誇れるものにする二日間です。



日本再発見塾in十日町 だあすけ だいじんがあ

～だから、たからもの～

文化芸術を中心に様々な分野のトップランナーが呼びかけ人となって2005年にはじまった「日本再発見塾」。各地を訪れ日本を再発見し、その地域を元気したいという思いで続けてきました。そして節目の第十回が十日町市で開催されます。世界的な豪雪地帯であるこの地域。効率化やグローバル化が進む現代では「なぜこのような自然の厳しい土地に住むのか」と思われがちなところ。しかし縄文時代から人が暮らし、この厳しい雪でさえも「たからもの」にする暮らしが息づいています。講師の皆さん、過去の開催地や市外から参加する人たちと地域に暮らす人たちが一緒になって伝統文化、職人の技、雪と深く関わった暮らしぶり、風土など「衣・食・住」を中心、十日町市の魅力、誇り、を再発見する二日間です。

●講師



黛まどか

俳人。MPd F8 PHOTO STUDIO 句集「京都の恋」で第2回山本健吉文学賞受賞。2010～2011年、文化庁・文化交流使として欧州で活動。オペラ「万葉集」演の白糸」日本執筆、校歌の作詞など、俳句に限らず幅広く活躍。「日本再発見塾」呼びかけ人代表。



上野誠

奈良大学文学部教授 国際日本文化研究センター客員教授、博士(文学)。日本一元気ないい万葉学者をめざす。著書多数。



近藤誠一

近藤文化・外交研究所代表 前文化庁長官 ユネスコ日本政府代表部大使、駐デンマーク王国大使、2010年より文化庁長官。2013年退官後は、外務省参与(国連関係)、東京大学などで教鞭をとるほか、企業顧問などに就任。



佐川旭

建築家。福島県古殿出身。小学校の設計に地域材の活用を図り、2009年度木材活用コンクールで特別賞を受賞。女子美術大学非常勤講師。



塩野米松

作家。秋田県角館出身 東京理科大学卒業。各地を旅して森の仕事や職人の働き方をメインにしている。著書多数。



野崎洋光

1953年福島県生まれ。1980年、東京・西麻布「とく山」料理長就任。1989年に海麻布「分とく山」開店。雑誌、TVなど各種メディアを通じ、理論的な料理法に基づく作りやすい和食を提唱。



吉岡幸雄

編集・広告の仕事を経て、生家である「菜司よしおか」を継承する。植物・天然染料による染色を専らとして、日本の伝統色と染色の歴史を研究する。

平成27年 8月22日(土)～8月23日(日)

●日程

22日 募集人数 100名 (十日町市民対象)

十日町のくらしの「聞き歩き」報告・意見交換 まち歩き (竹所、星峠等)

受付 12時 十日町駅西口集合

23日 募集人数 200名 (十日町市民対象)

シンポジウムおよび市民を交えたディスカッション

10:00 第一部 十日町の魅力 いるもの/いないもの

12:00 雪里ビュッフェ (昼食交流会 12:00～13:30)

13:30 第二部 「十日町から日本全体へ 日本再発見塾の輪」

昼食交流会は人数に限りがありますが、シンポジウムへの参加は席の許す限り可能です。

●会場：十日町市民会館 市民体育館

●参加費：無料 (各イベントごとに事前申し込みが必要です)

●締め切り：7月31日 (締切前でも定員になり次第締め切らせて頂きます。)

※プログラムの内容は、都合により変更される場合がございます。

後援：構想日本 十日町市 十日町市市制施行10周年記念事業

参加お申込書

fax.025-757-3132 または info@trico-gen.jp

ご連絡先

| | | | |
|---------------------------|-------------------------|--------|---------|
| ご住所 | 〒 - | | |
| 電話番号 | | E-Mail | |
| お名前 | | 年齢 | 歳 (男・女) |
| 参加する イベント○を 付けてください | 22日 (土) | 参加 | 不参加 |
| | 23日 (日) 雪里ビュッフェ (昼食交流会) | 参加 | 不参加 |